

“馬淵采配”近づきたい

今月7～11日、高知市で開催された社会人野球のJABA四国大会。16チームの中に、

明治安田生命(東京)の監督としてユニホームをまとう岡村憲二さん(47)は四万十市出身の姿があった。松井5敬遠で騒動となった30年前の夏の甲子園、県代表の明德義塾で背番号1を背負い、4番打者を任されていた。監督として2年目を迎え、故郷でチームの指揮を執った岡村さんにこれまでの野球人生を振り返りながら、今後の抱負などを聞いた。(柳原雪司)

岡村憲二・明治安田生命監督(明德高出身)

“松井5敬遠”時の背番号1



JABA四国大会は4強で惜敗。今年は都市対抗日本選手権へ絶対に出場する「意気込み明治安田生命・岡村憲二監督(高知市よみぎドーム)」

星稜戦は人生の宝物

はシタックスの補強選手として都市対抗に出、本塁打も打った。さあドラフト」って思いましたが、指名されず。そんな繰り返して3年が過ぎ、25歳の時に諦めました」

「その後、入社して14年間野球に携わった。34、35歳は兼任コーチ、36歳は専任コーチでした。その後、社業に専念して、営業所長で静岡、佐賀、埼玉で勤務し

た。2019、20年は高知本町営業所長でした」

「その後、入社して14年間野球に携わった。34、35歳は兼任コーチ、36歳は専任コーチでした。その後、社業に専念して、営業所長で静岡、佐賀、埼玉で勤務し

おかむら・けんじ 四万十市出身。市立中村中3年の時、県中学野球選手権準優勝。決勝で敗れた明德義塾中の選手に誘われ明德高へ。高校2、3年で夏の甲子園出場。専修大を経て、1997年、明治安田生命(当時は明治生命)に入社。以後、野球部に14年間所属。2021年から監督。埼玉県鴻巣市在住。妻、高校生の長男、小学生の長女と4人暮らし。

「昨年都市対抗、日本選手権とも地区代表決定戦で敗れ、出場を逃した。今年は何としても勝たせてやりたい。日本一を目指して指導します」

「高校時代、『勝つ確率の高い野球を』と常に話され、そのために何をすべきかを具体的に教えてくれた。守って勝つ馬淵采配は理想。少しでも近づきたい。ただ、5敬遠を選択する度胸は僕にはないかな」

師の馬淵史郎監督は。「選手をよく見ろ」と一発目に言われました。性格をよく見て、それぞれの良さを分かった上で選手起用できる監督になれど。最高のはなむけの言葉でした」